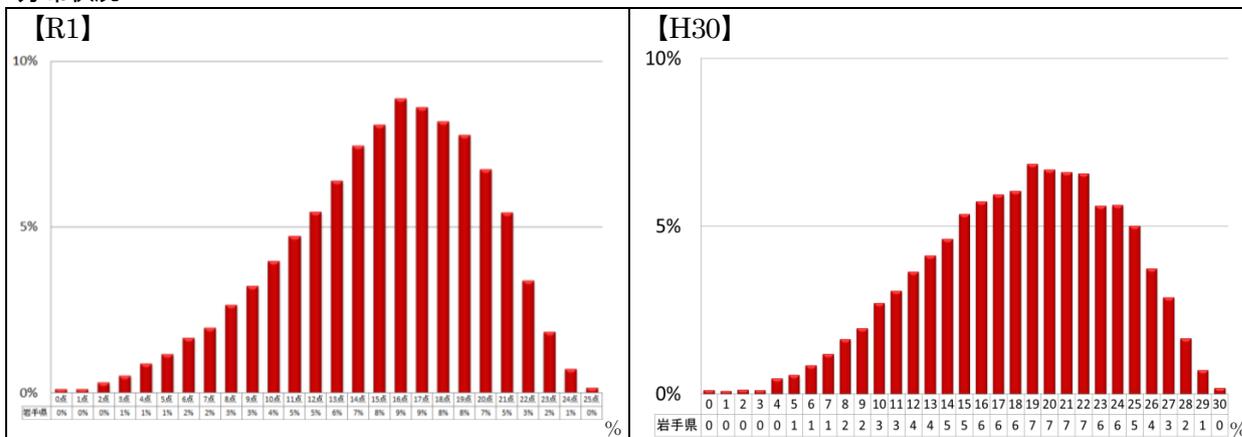


授業改善の手引 小学校第5学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数は昨年度より5問減り、正答数の最頻値は17問、平均正答数は15問です。昨年度の分布と比較して山が左に移動しています。平均正答数が13問以下の児童が全体の27%となっており、この層に属する児童へのきめ細かな指導が引き続き必要です。 (正答数の最頻値：該当する児童数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率 ()はH30, < >はH29
話すこと・聞くこと (5問)	51% (61%) <66%
書くこと (2問)	54% (53%) <46%
読むこと (7問)	58% (48%) <54%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (11問)	68% (73%) <69%
活用 (5問)	44% (40%) <42%

(3) 結果概要

- 『読むこと』の「目的や必要に応じて、文章の内容を要約する」問題や、『書くこと』の「段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く」問題の正答率が向上しています。
- 『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』においては、「文脈に沿って、語句を適切に使うこと(対義語)」や「ことわざの意味や正しい使い方」に関する問題について、改善傾向が見られます。
- 活用を意識した問題においては、「疑問に思ったことを適切な言葉遣いでたずねる」問題の正答率が67%と、改善傾向にあります。
- 『読むこと』の「叙述を基に登場人物の心情を読む」問題と「段落相互の関係を捉える」問題の正答率が低い傾向にあることから、場面や段落を関連付けて読むことに依然として課題があると考えられます。
- 活用を意識した問題においては、「発言の内容を基に、話合いの流れをまとめる」問題の正答率が12%であったことから、目的を考えながら聞き、話合いの流れを捉えることに課題があると考えられます。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マスを表す)

通番号	正答率	比較	調査のねらい
● 6 (伝国)	69	2	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる。(漢字辞典、部首・画数)
● 7 (伝国)	66	▲ 7	
● 11 (伝国)	37	▲ 10	文の構成について理解する。(修飾語)
● 14 (読)	58	▲ 4	場面の移り変わりを読む。
● 20 (読)	48	▲ 5	段落相互の関係をとらえる。
● 25 (書)	46	▲ 6	目的に応じて理由を挙げて意見を書く。

- 通番号6「理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる」については、正答率が2ポイント上昇し、改善傾向が見られましたが、引き続き注視が必要です。
- それ以外の小問については、依然として課題が継続している状況です。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)						
大問	中問	小問	通番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1		話の組み立て方を意識しながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		68	18	68	10	3	0	0	0
	(2)	2		発言の内容を基に、話し合いの流れをまとめる。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用	12	0	0	0	0	81	12	7
	(3)	3		話し合いにおける司会の役割をとらえて聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)オ	話・聞		41	41	20	4	34	0	0	0
2	(1)	4		話の内容についてのメモの取り方の工夫を理解する。	第5・6学年「話・聞」(1)ア・エ	話・聞		66	6	22	66	5	0	0	0
	(2)	5		疑問に思ったことを適切な言葉遣いでたずねる。	第5・6学年「話・聞」(1)イ	話・聞	活用	67	0	0	0	0	28	67	5
3	(1)	ア	6	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる。(漢字辞典、部首・画数)	第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)・ウ(ウ)	伝国	経年	69	0	0	0	0	27	69	4
		イ	7		第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)・ウ(ウ)	伝国	経年	67	0	0	0	0	24	67	10
	(2)	①	8	文脈に沿って、語句を適切に使う。(対義語)	第3・4学年「伝国」(1)イ(オ)	伝国		94	1	1	94	0	3	0	0
		②	9	文脈に沿って、語句を適切に使う。(対義語)	第3・4学年「伝国」(1)イ(オ)	伝国		93	2	1	1	93	4	0	0
	(3)		10	漢字の由来、特質について理解する。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		37	37	48	10	2	1	0	1
	(4)		11	文の構成について理解する。(修飾語)	第3・4学年「伝国」(1)イ(キ)	伝国	経年	37	27	9	25	37	1	0	1
	(5)		12	ことわざの意味や使い方を理解する。	第3・4学年「伝国」(1)ア(イ)	伝国		68	24	68	5	2	0	0	1
(6)		13	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		51	0	0	0	0	36	51	13	
4	(1)		14	場面の移り変わりを読む。	第3・4学年「読」(1)ウ	読	経年	58	5	18	15	58	1	0	2
	(2)		15	叙述を基に登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		42	0	0	0	0	42	42	16
	(3)		16	叙述を基に登場人物の相互関係を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		77	77	4	7	9	0	0	2
	(4)		17	目的や必要に応じて、叙述を基に場面についての描写を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読	活用	48	21	48	12	16	1	0	2
5	(1)		18	文章の内容を的確に押さえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読		84	0	0	0	0	13	84	3
	(2)		19	接続語の役割を理解し、使う。	第3・4学年「伝国」(1)イ(ク)	伝国		74	12	6	74	4	2	0	2
	(3)		20	段落相互の関係をとらえる。	第3・4学年「読」(1)イ	読	経年	48	28	48	13	8	0	0	3
	(4)		21	目的や必要に応じて、文章の内容を要約する。	第3・4学年「読」(1)エ	読	活用	49	0	0	0	0	43	49	8
6	(1)	①	22	文脈に沿って、漢字を正しく書く。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		89	0	0	0	0	5	89	6
		②	23	文脈に沿って、漢字を正しく書く。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		68	0	0	0	0	22	68	10
	(2)	①	24	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	第3・4学年「書」(1)イ	書		62	0	0	0	0	24	62	13
		②	25	目的に応じて理由を挙げて意見を書く。	第3・4学年「書」(1)ウ	書	経年活用	46	0	0	0	0	40	46	14
全体正答率								61							

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

2 指導のポイント

(1) 目的を考えながら聞き、話し合いの内容や流れを捉えられるように指導しましょう。

ア 問題の概要

① (2) 発言の内容を基に、話し合いの流れをまとめることができる。

第5・6学年「話・聞」(1)エ 正答率12%

イ 誤答分析

無解答率は7%でした。誤答を分析すると、「毎日の」「食べ残しを減らす」のどちらか一方を書いている解答が多く見られました。また、「前向きな」「効き目のある」等、話し合いの流れを捉えていない解答も見られました。

この問題では、目的を考えながら話を聞き、話し合いの流れを捉えることが求められます。つまりきの要因として、目的を明確にして話し合う指導場面や、それぞれの意見を関連付けながら話し合いの流れを捉える指導場面の不足が考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-①(1)】

話し合う活動では、目的を明確にし、目的を踏まえた話し合いになっているかを確認しながら進めることが重要です。それぞれの意見の基となる理由を尋ね合う中で、共通点や相違点を整理しながら、話の内容や流れを捉えられるようにしましょう。

目的を明確にして話し合い、話の内容や流れを捉える力を高められるように、話し合いの初めに目的を確認することや板書に目的を明示し、目的を自覚して話し合えるようにすること、色分けをするなどして意見と理由が明確に分かるような板書を心掛け、理由を吟味することを通して、目的に応じた考えを形成できるようにすること等を大切に指導していきましょう。

(2) 目的や必要に応じて、文章の内容を要約する学習活動を位置付けましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

⑤ (4) 目的や必要に応じて、文章の内容を要約することができる。

第3・4学年「読」(1)エ 正答率48%

イ 誤答分析

無解答率は8%でした。誤答を分析すると、「高音すぎて人間には聞こえない音」「人間にはこの音声は聞こえない」「〇.ニミリ秒から三百ミリ秒の短い音」といった、「超音波」について説明する記述が多く見られました。どの段落にも「エコロケーション」という言葉があることから、どの段落に着目すればよいのか迷ったものと考えられます。

この問題では、第1段落に、解答に必要な「エコロケーションとは」について述べられている文章構成であることに気づき、解答する条件を踏まえた上で、必要な情報を落とさずに記述することが求められます。つまりきの要因として、文章全体の段落構成や段落相互の関係を捉える力に課題があることが考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-⑤(3)】

要約の指導では、何のために要約するのかという目的を明確にし、何について要約するのかを具体的に把握できるようにすることが大切です。そして、必要とする情報がどこに書いているかを捉えられるようにするために、文章構成図等を作成するなどし、段落相互の関係を捉えながら文章全体の内容を正確に把握できるようにします。その上で、要約の分量や条件などを考え、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり、自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめる言語活動を通して指導していきましょう。

自分が必要とする情報が、どこにどのように書かれているのかを見付けるためには、各段落において中心となる語や文に着目して要約したり、段落に見出しを付けたりしながら、段落相互の関係を考えることが大切です。本問に関する場合であれば、例えば「コウモリの特技」について要約したり、「エコロケーションの仕組み」や「超音波とは何か」といった目的や必要に応じて要約したりする指導場면을大切にしましょう。【展開例 参照】

(3) 目的に応じて、理由を挙げて意見を書く活動を位置付けましょう。

ア 問題の概要

6 (2) 目的に応じて理由を挙げて意見を書くことができる。

第3・4学年「書」(1)ウ 正答率46%

イ 誤答分析

無解答率は14%でした。誤答を分析すると、『きれいな学校づくり運動』の目的に基づいて、選んだ取組のよさについて書く」という内容的な条件を踏まえずに、自分なりの考えを書いた解答が多く見られました。また、「2段落構成」「101字以上」という形式的な条件を踏まえていない解答も見られました。

この問題では、「自分の立場」と「その理由」について、内容的な条件と形式的な条件を踏まえて書く力が求められます。つまずきの要因として、目的を意識して考えを形成する指導場面や、条件を踏まえて自分の考えを表現する指導場面の不足が考えられます。

ウ 指導上の留意点【関連問題 中2-6】

自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切です。その際、文章全体の構成を捉え、条件を踏まえて書くことも重要です。

文章の構成を考える学習では、事実と考えを表に整理させたり、考えと理由を付箋に書き分けさせたりし、**事実、考え、理由を区別**して考えられるようにしましょう。文章全体の構成や踏まえる条件を捉えさせるためには、**モデル文の提示**が有効です。望ましいモデルを示して表現のイメージをもたせたり、不完全なモデルを示すことで必要な条件を見付けさせたりすることができます。書いた文章を**自分で読み返す**ことや**相互評価**を行うことも、言葉を吟味して表現する力を高める上で重要です。国語科の授業に限らず、様々な教科等の学習において、理由を挙げて書くことや条件を踏まえて書くことを**横断的に指導**することも大切にしていきましょう。

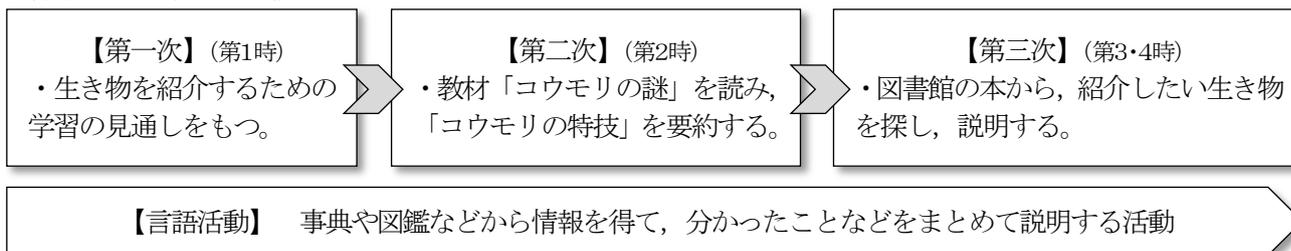
【目的を意識して、必要な情報を見付けて要約する学習活動を位置付けた授業の展開例】

- 1 単元名 「生き物の意外な特技を調べて要約し、紹介し合おう」
- 2 主教材 「コウモリの謎」(大沢啓子・大沢夕志) ※令和元年度岩手県小学校学習定着度状況調査問題5
副教材 学校図書館などにある生き物に関する本や図鑑、事典など

3 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。〔(2)ア〕	・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。〔C(1)ウ〕	・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

4 単元の計画 (全4時間)



1 前時の学習内容を想起する

- ・前時に話し合った、「あまりイメージの良くない生き物だけれど、実は意外にすごい特技をもっていそうな生き物」を紹介する。

「たくさんあるね。」
「おもしろいね。」

2 教材への興味や関心をもつ

- ・コウモリの写真を提示し、「イメージ」や「特徴」などについて話し合う。

「血を吸う。ドラキュラ。」
「暗い所にいる。夜行性。」

3 本時の学習課題を把握し、学習活動の見通しをもつ

「コウモリの特技」を説明するために、文章を短く要約しよう。

4 教材文「コウモリの謎」読み、構造と内容を把握する

教材文に書かれてあることが「答え」となるような、「問い」を作ってみましょう。



- ・「問い」に対応する「答えの段落」を確かめながら、各段落の内容や段落相互の関係をおさえる。

「なぜ、真っ暗闇でも虫をつかまえられるのだろうか。」
「超音波とは何だろうか。」
「エコーとは何でしょう。」
「エコーレーションとはどのようなものだろうか。」



「1と4段落には同じことが繰り返して書いてあるから大事だね。」

「2, 3段落は、それをくわしく説明しているね。」

「2段落目は、超音波の音の高さのことを書いているし、

3段落目は、超音波の音の長さやパルスのことを書いている。」

「人間には聞こえない高い声（超音波）を出したり、跳ね返ってくる音（エコー）を聞いたりすることができるのが、「エコーレーション」だね。」



紹介したい「コウモリの特技」をまとめてみましょう。

コウモリは、真っ暗闇でも虫を捕まえることができます。それは、「エコーレーション」という特技があるからです。



5 必要な情報を取り出し、要約する

- ・相手に分かりやすく伝えるために必要な情報は何かを考える。

どの段落にも「エコーレーション」という言葉がありますが、何段落目に着目して要約したらよいでしょう。

「エコーレーションについての説明が必要じゃないかな。」

「エコーレーションについて書いてある段落は、1段落目だったね。」



- ・「エコーレーションとは…」に続く文章を考える。(50字以内)

(例) ロや鼻から出した声はね返ってくる音を聞いて、虫の位置などを知ることができることです。

第1段落中の、「これ」「その」という指示語に着目するといいね。



6 学習を振り返る

(例) 「文章中のどの情報を取り出したらいいかは、目的や必要によって変わることが分かった。」
「段落の構成や関係、内容を考えて、どの段落どの文章に着目すればよいか考えていきたい。」

7 次時の学習の見通しをもつ

- ・自分が伝えたい「意外な特技をもっていそうな生き物」の候補をいくつか考えてくる。